



2016年6月24日

神奈川県教育長 桐谷 次郎 様

公益社団法人 日本建築家協会 (JIA)
関東甲信越支部支部長
同保存問題委員会委員長
同神奈川地域会代表



神奈川県立近代美術館鎌倉館の保存活用に関して 環境と屋外彫刻の継承に関する要望

拝啓、時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。
貴県におかれましては、日頃より文化の発展と継承に深く理解を示されていることに心より敬意を表します。また、当会の活動に格別のご理解を賜り、深く感謝申し上げます。

神奈川県立近代美術館鎌倉館は戦後間もない厳しい時期に世界に誇れる美術館を構想した当時の内山知事はじめ多くの方々の文化に対する高い見識と、建築家ル・コルビュジェに師事し近代建築史に大きな足跡を残した建築家坂倉準三の「人間の為の建築」に対する強い思いが結びついた類い稀な建築と評価されています。この認識の元に当会では、2010年12月と2013年10月に「神奈川県立近代美術館鎌倉館の建物の活用とその景観の保全に向けた要望書」を貴県に提出させて頂きました。当会はじめ多くの団体からの保存・活用要望をうけ、貴県は2014年8月から耐震診断を実施し、その結果を受け2015年9月に「本館」建物に耐震改修を施し存続させる方針をご決定され、さらに県指定文化財への指定による保存修理の補助を検討されているとの事に長年に亘り保存活用に要望させて頂いた当事者として深く敬意を表します。

さて、本年1月末の鎌倉館としての最後の展覧会「鎌倉からはじまった」展は様々なメディアでもとりあげられ、多数の来館者により入口前に長い行列ができる社会現象ともいえる状況となりました。この現象は建物が建築史上重要であるということに留まらず、その創り出す「環境」の魅力が人々の心に深く沁み入り愛されてきたことの証左であると考えられます。この「環境」は建築そのものや鶴岡八幡宮の境内の森と渾然一体となった外部空間など多くの要素により生み出されてきましたが、中でも創建当時から土方定一館長が進められた野外彫刻展示は欠かすことができないものです。この当時は未だ珍しかった野外彫刻展示はその後の美術界に多大な影響を残しました。とりわけ、中庭のイサム・ノグチの彫刻「コケシ」は60余年にわたり空間と一体となって鎌倉近代美術館を訪れる人々の忘れ得ぬ原風景を形成し、「環境」の象徴として評価することができます。

本館の保存活用が決定され、一般市民の方々も鎌倉館の将来には大きな注目を寄せております。今後の活用について新聞報道(建通新聞2015年9月24日)に依れば鶴岡八幡宮によって「文化的な施設として社会貢献する活動を図る」ものとして活用されるとあります。この活用計画にあたり、人々の原風景であり美術界に大きな影響を与えてきた、60余年の歴史をもち人々の貴重な財産である野外彫刻展示のある「環境」が評価され、珠玉の建築とともに魅力的に継承されることが望まれます。つきましては、その一助として、耐震改修後に新しい施設が開設される際、野外彫刻「コケシ」をそこに委託展示されるなどの方法をご検討頂きたく、何卒ご高配を賜りますようお願い申し上げます。

なお、公益社団法人日本建築家協会関東甲信越支部、同保存問題委員会、同神奈川地域会は、神奈川県立近代美術館の建物や付帯する彫刻等を含む外部環境の活用、景観の保全、また県指定文化財の保存修理におけるオーセンシティ(保存における価値の真正性)の維持について、出来る限りの協力をさせて頂く所存である事を申し添えます。

敬具